1 自己評価及び外部評価結果

（ユニット名　　A棟　　）

事業所番号	0292400025		
法人名	いかり商事株式会社		
事業所名	グループホームアップル鶴の里		
所在地	青森県鶴田町大字横菏字矢留崎97		
自己評価作成日	平成22年12月10日	評価結果市町村受理日	平成　年　月　日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。（↓このURLをクリック）
（公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号　県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①個別ケアの充実、②笑い・喜びの提供（行事やコミュニケーション）、③悩み・悲しみの共感

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域の町内会には入会していないが、日常的に近隣の方と挨拶を交わし、町内の催し物には積極的に参加し、交流を図っている。小学校の訪問なども積極的に受け入れしている。職員は入所者の希望や思いを大事にしてできる限り利用者から聞くようにし、サービス提供に努めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1．ほぼ全ての利用者の
			2．利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1．毎日ある
			2．数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1．ほぼ全ての家族と
			2．家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1．ほぼ毎日のように
			2．数日に1回程度
			3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1．大いに増えている
			2．少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1．ほぼ全ての職員が
			2．職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1．ほぼ全ての家族等が
			2．家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、見えやすい場所に、掲示している。	前所長が地域密着型サービスの意義を踏まえて「利用者一人ひとりの意見を尊重し、スタッフと利用者、スタッフと家族、スタッフとスタッフが相互に支えあってケアをする」という独自の理念を作成し、玄関や相談室等に掲示している。毎日目にすることで実践できるように心がけている。	地域密着型サービスの意義を全員で再確認して、グループホームの特性と役割を十分理解し、サービス提供されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校、町の行事には運営推進会議等を通して情報を得たり、協力している。	町内会に入会はしていないが、町の行事に積極的に参加したり、近隣を散歩時に挨拶をしたり、りんごもぎの声をかけてもらったり、畑作りを手伝ってもらったりしている。また、小学校や無形文化財を保護している団体の訪問等も積極的に受け入れ、交流を図るようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まずは、認知症対応の事業について、会議等を通して説明している。また、祭りや行事のボランティアの受け入れ体制も整っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、地域や町の活動情報を意見を聞きいれ、参加や改善に取り組んでいる。	会議は3ヶ月に1回、2集落の町内会長と民生委員各1名ずつ、役場職員、地域包括支援センター職員、家族1～2名、管理者と所長が参加して開催している。日程はその都度ホームの都合で決めて案内文と資料を届け、意見を出しやすいように工夫している。会議で出された意見は積極的に取り入れ、サービス向上に努めている。	ホーム周辺は農村地帯で農繁期など忙しいこともあり、その都度施設だけの都合に合わせ開催日を決めるのでなく、日時や場所を年間で計画し、参加者が出席しやすくなる仕組みづくりに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当職員、地域包括支援センター職員が参加している。常に町の動きやアドバイスを頂いている。	運営推進会議に役場職員が参加しているので事業所の業務内容や取り組みを報告したり、アドバイスしてもらっている。必要性があれば町会長に相談し、役場に働きかけ、協力してもらうようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束をしないケアの必要性を家族に契約時に説明している。自由な出入りに関しては、併設事業所と連携を図り、見守り体制はできている。	身体拘束はしない方針でケアしており、契約時にやむを得ず身体拘束をする際の説明をしているが記録を残す等の体制はとられていない。施錠も身体拘束だという認識はされておらず、非常口は施錠している。外出傾向のある利用者は常時見守りし、落ち着くまで付き添っている。周囲がりんご畑であることから、畑で仕事をしている方の協力が得られ、無断外出を防いでいる。	身体拘束をしないケアを実践しているとのことだが、施錠も身体拘束になるという認識を持つこと含め、身体拘束とは何かをもう一度確認しあって、口頭での説明だけではなく書面等の体制の整備をすることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	特に勉強会を開催していない。しかし、ケアの上で、体にアザや異変があった場合は、職員間で原因を追究している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	部署内で一度、勉強会を開催している程度。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	各項目に関して説明はしているが、重度化については口頭での説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設けている。その他、その都度利用者に関わる事は家族に問うようにしている。	玄関に意見箱を設置したり、重要事項説明書に連絡先を掲示している。また、面会時や電話の時に意見を聞くようにしている。利用者がうまく表現出来ない時は日常の言動から察知するようにしている。意見や苦情はほとんどないが、あれば速やかに取り組む体制がある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会を設けて、個別に改善や要望を聞いている。	職員が代表者と直接話す機会はない。管理者が不定期で(年2回)個別面談したり、ケア会議、また、改善や要望があればその都度聞いて、所長を通して代表者に伝えてもらい運営に反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断は毎年実施。就業規則を各事業所に配布し、内容を把握するようにしている。研修や会議録を回覧している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その人に合った研修をその都度実施し、研修報告会及び記録に残している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協会の定期的研修や懇親会等に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所面談や契約時に利用者及び、家族の要望を聞き入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	身体的、精神的異変がある場合は、家族、医師と連携を図り、利用者や家族の精神的な軽減を努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは出来る事を最優先し、ケアの取組みに活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人にあった役割を与え、共に行いADLの維持・向上に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時は家族に結果報告し、場合によっては要望を取り入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族を通じて関わりのある人への行事参加を呼び掛けている。	入居時に利用者や家族等から情報を得たり、利用者の言動から察知して、これまで関わってきた人へ電話をかける支援を行ったり、手紙を代筆したり、面会に来てもらうよう連絡している。また、希望や体調等を考慮して、馴染みの場所に外出できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その場の状況に応じて、職員が潤滑油になり人間関係に影響の無いよう援助している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の受け入れ先や、サービス相談などその人に合ったサービスの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	例えば、今現在何をしたいか、どこに行きたいか、何を食べたいかなど不定期ではあるが個々に聞くようにしている。	日頃から利用者に希望や思いを伝えてもらい、それを尊重するようにしている。意向の把握が困難な場合は家族や関係者に確認したり、普段の言動から汲み取るようにしている。	
24		**○これまでの暮らしの把握** 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人を通して、情報収集に努めている。		
25		**○暮らしの現状の把握** 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェック、食事状態を記録に残している。		
26	(10)	**○チームでつくる介護計画とモニタリング** 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まだ、家族を交えるまでは至らないが、家族の意見を口頭で聞き、ケア会議に取り組んでいる。また、3ヶ月毎の見直し、ケア会議を開催している。	管理者が交代して間もなく、介護計画やモニタリングの流れがきちんと理解されていなかったため、最近まで介護計画が作成されていなかった。職員や利用者、家族との関わりやモニタリング、見直しなども整備不足な点が見受けられ、最近、ケアマネージャーが採用されたことにより、少しずつ改善されている。	ケアマネージャーの指導やアドバイスで介護計画やモニタリングなど一連の流れが理解され徐々に実践に移っている途中とのことだが、管理者も職員も研修の場を設けて最初からひとつずつ見直しすることに期待したい。
27		**○個別の記録と実践への反映** 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や言動、状態の変化等を、個々のケア記録に記載し職員の情報共有を徹底している。ケア会議では、記録を基に介護計画の見直し、評価をしている。		
28		**○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載）** 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	開設1年6ヶ月なので正式な短期入所事業では無く、独自の短期入所事業を開設。また、併設事業所と連携を図り、交流を保っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や防災訓練において、ボランティア、消防署職員の派遣、学校行事へ参加し、良い関係を保っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は家族に結果報告し、今後の要望などを取り入れている。また、希望があればその人に合った病院へ受診できるよう支援している。	入所時にこれまでの受診状況や、希望する病院や主治医を家族から聞いて把握している。協力病院を受診している利用者が多く、希望があればどこでも受診できる体制がある。受診状況は利用者毎にきちんと把握し、管理されて、利用者や家族等とも内容の共有をし、納得が得られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師と連携を図り、日常の状態報告、または、異変時のアドバイスを伺う等、相談指示体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や医療関係との連携を図り、定期的に状態を確認し、今後のケアの仕方を話し合うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の説明をし、その人に対してできる事、でき得る範囲までケアをしていけるよう、職員間または家族と話し合いを持つようにしている。	入居時に管理者が重度化した際は、施設として出来る限りの援助はしていくが、終末期、看取りの対応はしていないことを口頭で説明している。また、その状態に至った時に、医療機関も交えて納得のいく話し合いをしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを整備し、職員の周知徹底を図っている。消防署の協力を得て救急手当てや蘇生術の研修会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、消火器の使用法の訓練を定期的に行っている。	3施設合同の避難訓練を年2回行っているが、単独や夜間想定の訓練は行っていない。消火器設備点検は訓練日以外でも管理者が行っているが、非常時の備蓄までには至ってない。近隣住民や警察署等の協力も働きかけの途中である。	ホーム単独で夜間想定の避難訓練をすることを期待したい。さらに、できるかぎり近隣住民や家族などにも参加を促し、協力体制を築いていくことにも期待したい。また、非常時の備蓄にも取り組んではどうか。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティングを行い、言葉掛け・対応を定期的に見直し、より良いケアが出来るよう努力している。	運営者の意向で利用者は「姓」に「さん」をつけて呼んでいる。朝礼や会議で利用者の人格を尊重することを確認し、トイレ誘導や入浴介助はプライバシーに配慮するように話し合いをして援助に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や好みを把握し、日常生活に意欲が出るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、個々のペースに合わせ柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には、本人の意向で着替えをしているが、その場面に応じた声掛けや支援をしている。散髪や毛染めなど、本人の希望に応じ対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	併設事業所の関係で、食事は厨房より提供されている。月2回昼食を利用者と共に作っている。その際は、昔馴染んだ料理を何品か作るようにしている。	厨房に栄養士、調理師が所属し、献立は栄養士が作成してデイサービスとグループホームに配膳している。利用者の好みを聞いたり、代替食やおかゆ、刻み食など形態にも対応している。毎食時、検食係が同席し、他のスタッフもさりげなく見守りや食事介助して、会話しながら食事を楽しんでいる。月2回利用者と調理を行い、可能な利用者は準備、片付けも一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取状況をチェック表に記録し、職員が情報の共有をしている。本人の好みや希望に応じて提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、介助または見守りにより口腔ケアを行っている。就寝前には、義歯の洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、トイレ誘導することでトイレでの排泄を促している。	排泄チェック表で管理し、プライバシーに配慮しながらオムツはずしなど自立支援に積極的に取り組んでいる。各居室にトイレが設置され、トイレ誘導時も利用者の羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤は個々の状態に応じた頻度、使用量とし、むやみに薬に頼らないようにしている。 体を動かす機会を日常的に設け自然排便できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前にはバイタルチェックを行い、安心・安全に入浴できるよう心掛けている。また、入浴剤を使い、気分転換を図っている。	週2回(月・木)午前午後入浴日としている。本人や家族から入浴習慣や好みを聞き、安全に入浴できるように配慮しており、入浴を拒否する場合は時間や職員を変えたり、部分浴や清拭などで対応している。また、入浴券を発行するアイデアが取り入れられ、楽しく入浴できるよう工夫している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人毎に整理し、内容を把握できるようにしている。服薬時は、きちんと服用できたか確認している。状態の変化が見られた場合は、看護職員や医療機関との連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業では、経験や知恵を発揮して頂いたり、日常はお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天気などを考慮し、希望に応じた買い物に出かけたり、ドライブや外食、お弁当を持って戸外に出かけたりしている。	利用者に外出先の希望を聞いたり、日頃の会話からニーズを把握し、季節や天候を考慮しながら夏場は月に3回ぐらいドライブしたり、回転寿司や買い物、祭り見学等に出かけている。祭りでは高校生のボランティアとの触れ合いもある。必要に応じて、家族に外出支援の協力依頼もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、少額のお金を持ち歩いている方もおり、管理している方でも外出時は本人に持たせる等工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの飾りつけを活用し季節を感じて頂いている。	共用空間は天井に明り取りが設置され、明るい環境である。湿度計、温度計を置いて室温管理されている。落ち着いた調度品が配置され、季節感のある飾りつけや写真が掲示されゆったり過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士でくつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた日用品や家具など持ってきて頂き、居心地良く生活できるよう配慮している。	利用者の愛用品やなじみの調度品を持参するように促し、必要に応じて本人や家族と話し合い一緒に購入したり、飾り付けを行い、一人ひとりが居心地良く過ごせるような居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在の状態や状況に合わせた環境整備に努めている。		